

領域「健康」に関する専門的事項の新たな授業の開発

：幼稚園教育要領の改訂に伴う対応について

山 津 幸 司

Development of new lessons on specialized matters related to the area
"health" in the kindergarten teacher education courses
: Correspondence with revision of kindergarten education guidelines

Koji YAMATSU

要 旨

我が国の幼稚園教員養成は、2017年に幼稚園教育要領（文部科学省, 2017）が改訂され、保育所や幼保連携型認定こども園と共通性・連携性をもった教育サービスの提供が不可欠となった。そのため、大学等の養成校では幼稚園教員養成段階でのカリキュラム改善が求められている。幼稚園教育要領の改訂に伴い、新しく位置付けられた「領域に関する専門的事項」の中で5領域の専門科目を各養成校で新設する必要が生じた。本研究では、佐賀大学教育学部における領域「健康」で新設が求められた科目（モデルカリキュラム名は「幼児と健康」）の授業内容を検討することを目的とした。幼稚園教育要領、モデルカリキュラム等を参考に授業内容の検討に必要な視点を整理し、新たなシラバスを示した。今後、指導法の科目である保育内容「健康」との有効な接続を考慮したカリキュラムの検討が急務である。

Keywords：幼稚園教育要領, 教員免許, 大学講義, カリキュラム, シラバス, 幼児期運動指針

1. はじめに

我が国における幼児教育は、2017年に幼稚園教育要領（文部科学省, 2017）、保育所保育指針（厚生労働省, 2017）、および幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府, 2017）が同時改訂され、2018年4月から施行されることになった。

2017年に改訂された幼稚園教育要領に基づく新しい幼稚園教育は、中央教育審議会答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について:学び合い、高め合う教員養成コミュニティの構築に向けて」(2015年12月)、この答申を受け2016年11月には教育職員免許法の一部改正が行われるなどの一連の改革に基づくものである。幼稚園教育要領に基づく幼稚園教員養成の新教職課程が2019年4月より開始され、今

まで認定・指定を受けていた教職課程を続けるためには再課程認定を申請し認定・指定を受ける必要が生じることとなった。

佐賀大学教育学部でもこの動きに対応し、2021年度に再課程認定への申請を行い、2023年度から新たな教職課程を開始させる予定である。著者はこの新教職課程の中で領域「健康」の「領域に関する専門的事項」を担当することとなり、「幼児と健康Ⅰ（仮称）」の担当準備を進めている。

そこで、本研究では再課程認定を受ける必要が生じた幼稚園教育要領等の改訂に関わる経緯や改訂の内容を踏まえた教育内容の変更点を整理し、新たに開講する「領域に関する専門的事項」に関する科目の授業内容を検討することとした。

2. 幼稚園教育要領の変更に伴う変更点（表1）

2017年の幼稚園教育要領の改訂は、中央教育審議会答申を踏まえて、「幼稚園教育において育みたい資質・能力の明確化」、「小学校教育との円滑な接続」、「現代的な諸課題を踏まえた教育内容の見直し」という3つの基本方針に従い行われている（文部科学省、2018年）。2017年の幼稚園教育要領では、幼稚園教育が学校教育のスタートとして位置づけられ、幼稚園教育の目的が「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿（文部科学省、2017年）」（表1参照）として明確化されることとなった。また、幼稚園教育のみならず、保育所や幼保連携型認定こども園での幼児教育の教育成果が小学校教育の基礎となることが念頭に置かれることとなった。

本教育要領の改訂により各大学の幼稚園教員養成課程の教職課程は大幅な見直しが必要となり、「領域及び保育内容の指導法に関する科目」が新たに創設されることになった。「領域及び保育内容の指導法に関する科目」は「領域に関する専門的事項」と「保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」から構成されている。特に、今回新たに開講されることとなった「領域に関する専門的事項」に関する科目は、幼児教育で幼児に対し「何をどのように指導するのか」の「何を」を深める部分と位置付けられている（吉田、2020）。以上のような経緯からも、本稿で「領域に関する専門的事項」に関する科目の授業内容を検討する意義は大きいと思われる。

表1. 幼児期の終わりにまでに育って欲しい姿

1. 健康な心と体	4. 道徳性・規範意識の芽生え	7. 自然との関わり・生命尊重
2. 自立心	5. 社会生活との関わり	8. 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
3. 協同性	6. 思考力の芽生え	9. 言葉による伝え合い
		10. 豊かな感性と表現

出典：幼稚園教育要領（文部科学省、2017）

3. 領域「健康」のねらいと幼稚園教育要領改訂に伴う変更点

2017年の幼稚園教育要領の改訂に伴い、幼稚園教育の5領域（健康、環境、人間関係、言葉、表現）のそれぞれで「領域に関する専門的事項」を扱う科目を新設する必要が生じた。著者は佐賀大学教育学部の保健体育科教員として、教養教育の体育実技、専門教育の小学体育や体育心理学等を担当してきたが、今回の幼稚園教育要領の改訂に伴うカリキュラムの変更で、領域「健康」の専門的事項に関する科目（科目名称は「幼児と健康Ⅰ（仮称）」の予定）を担当することとなった。

さて、幼児教育における領域とは「幼児期の発達を整理し5つの側面（健康、人間関係、環境、言葉、表現）からまとめたものである。吉田（2020）の説明を借りると次のようになる。

『領域は小学校以上の教科のように、特定の活動（たとえばボール運動）と特定の教科（たとえば体育）を1対1で結びつけるのではなく、ある活動には様々な領域（5つの領域）に関わる経験が包括的に含まれているという考えである。たとえばボール遊びの場面では、友達と協力したり、きまりを守って遊んだりする姿は領域「人間関係」、ボールのはずみ方や転がり方に興味をもち試す姿は領域「環境」、遊び方について自分の思いを友達に伝えたり尋ねたりする姿は領域「言葉」、思い切り体を使って動く姿は領域「健康」に関係している。』（吉田，2020）

2017年の幼稚園教育要領の改訂により、領域「健康」で特に影響を受けたのが、育みたい資質・能力が三つの柱（「知識及び技能の基礎」「思考力・判断力・表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」）に整理されたことに伴う変更である（吉田，2020）。2017年に同時に改訂された幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領では、小学校以降の教育で重視されている生きる力の基礎を育むための3つの資質能力を一体的に育むことが示されたのである。

また、2017年の幼稚園教育要領の改訂に伴う領域「健康」の主な改訂点は、次の4つである（吉田，2020）。一つ目は「見通しをもって行動すること」が追加され、「思考力・判断力・表現力等の基礎」における「見通しをもつ」ことが反映されることとなった。二つ目には「食べ物への関心や興味」、食育の強化があげられる。三つ目には「多様な動きの経験」、幼児期運動指針の策定を受けて多様な動きを経験させることが明記されたことがあげられる。最後に「安全に関する記述」、安全が領域「健康」の中に位置づけられたことも新たな変更点である。

4. 新たな授業の開発（表2、表3、表4）

領域「健康」の「領域に関する専門的事項」に対応する新たな授業を開発するためには、2017年の幼稚園教育要領（文部科学省，2017）に定められた領域「健康」のねらいと内容（表2参照）、保育教諭養成課程研究会が提案するモデルカリキュラム（一般社団法人保育教諭養成課程研究会，2017；表3参照）を

表2. 領域「健康」のねらいと内容

【健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う】	
(1) ねらい	1. 明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。 2. 自分の身体を十分に動かし、進んで運動しようとする。 3. 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身につけ、見通しをもって行動する。
(2) 内容	1. 先生や友達と触れ合い、安定感をもって行動する。 2. いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。 3. 進んで戸外で遊ぶ。 4. 様々な活動に親しみ、食べ物への興味や関心をもつ。 5. 先生や友達と食べることを楽しみ、食べ物への興味や関心をもつ。 6. 健康な生活のリズムを身につける。 7. 身の回りを清潔にし、衣類の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でする。 8. 幼稚園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する。 9. 自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う。 10. 危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する。

適切に理解しなければならない。著者が担当予定の「幼児と健康Ⅰ（仮称）」のシラバス案（表4参照）を表4に示した。具体的な授業展開としては、第1回はオリエンテーションとして『領域「健康」のねらいと内容』を解説する。第2回は「乳幼児期の健康課題と健康の発達の意味の理解」を解説する。第3回は「乳幼児期の心身と運動の発達」を解説し、乳幼児期の身体活動の重要性等や幼児期運動指針（幼児期運動指針策定委員会，2012）で提唱されている「多様な運動を経験する重要性」を理解させる。第4回は「子供が進んで動こうとするための保育者のかかわり」を解説し、著者が専門とする行動科学の知見等を活用した保育を理解させる。第5回は「幼児期の健康で基本的な生活習慣の理解」を解説し、食育や睡眠などの生活リズムを意識した保育の重要性を理解させる。第6回は「幼児の安全能力と怪我や病気の予防の特徴の理解」を解説し、領域「健康」に位置づけられることとなった幼児の安全に関する専門知識を理解させる。第7回は「指導における環境づくりの重要性」を解説し、物理的環境だけでなく心理的・認知的な環境整備の重要性を理解させる。第8回は「まとめ、領域「健康」の指導と小学校教育への接続」を解説し、幼小連携の重要性を理解させる予定である。

表3. モデルカリキュラム「幼児と健康」における到達目標

全体目標	当該科目では、領域「健康」の指導に関する、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項についての知識を身に付ける。
(1) 幼児の健康	
一般目標	幼児期の健康課題と健康の発達の意味を理解する。
到達目標	1) 乳幼児期の心と体、運動発達などの健康課題を説明できる。 2) 健康の定義と乳幼児期の健康の意義を説明できる。
(2) 体の諸機能の発達と生活習慣の形成	
一般目標	幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成を理解する。
到達目標	1) 乳幼児の体の発達の特徴を説明できる。 2) 乳幼児の基本的な生活習慣の形成とその意義を説明できる。
(3) 安全な生活と病気の予防	
一般目標	安全な生活と怪我や病気の予防を理解する。
到達目標	1) 幼児の安全教育・健康管理に関する基本的な考え方を理解している。 2) 幼児期の怪我の特徴や病気の予防について説明できる。 3) 危険に関しリスクとハザードの違いと安全管理を理解している。
(4) 幼児期の運動発達と身体活動	
一般目標	幼児期の運動発達の特徴と意義を理解する。
到達目標	1) 乳幼児期の運動発達の特徴を説明できる。 2) 幼児期において多様な動きを獲得することの意義を理解している。 3) 日常生活における幼児の動きの経験やその配慮など身体活動の在り方を説明できる。
[留意事項]	1) 幼児期の運動発達における大人との相違について映像資料や事例等を活用し、幼児期において多様な動きを獲得していくことの意義と重要性を理解できるようにする。 2) 領域「健康」に関わる学問的基盤や幼児教育に関わる専門性をもって健康における幼児期の課題を講義できる人材が担当するにふさわしい。

表 4. 「幼児と健康 I」のシラバス案

授業科目名： 幼児と健康 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 山津 幸司
			担当形態： 講義（単独）
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項（健康）		
授業の到達目標及びテーマ 1. 領域「健康」のねらい、内容、全体構造を理解する。 2. 領域「健康」の指導上の留意点を理解し、適切な指導能力を習得する。 3. 領域「健康」の指導について、小学校教育とのつながりを理解する。 4. 領域「健康」の指導と幼児期運動指針の関連性を理解する。			
授業の概要 講義形式で行う。発育、遊び、生活習慣、体力づくり、スポーツ、安全能力の指導（防災を含む）など、乳幼児の健康に関するテーマ・知見について、受講者の調査・発表、および全体討論を中心に進めていく。			
授業計画 第 1 回：オリエンテーション、領域「健康」のねらいと内容 第 2 回：乳幼児期の健康課題と健康の発達の意味の理解 第 3 回：乳幼児期の心身と運動の発達 第 4 回：子供が進んで動こうとするための保育者のかかわり 第 5 回：乳幼児期の健康で基本的な生活習慣の理解 第 6 回：乳幼児の安全能力と怪我や病気の予防の特徴の理解 第 7 回：指導における環境づくりの重要性 第 8 回：まとめ、領域「健康」の指導と小学校教育への接続			
テキスト 幼稚園教育要領（文部科学省, 2017）、幼稚園教育要領解説（文部科学省, 2018）			
参考書・参考資料等 幼児期運動指針（文部科学省, 2012） https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1319771.htm			
学生に対する評価 レポート（50%）と複数回の小テスト（50%）で、本授業における習熟度を評価する。			

5. 今後の研究課題

新たな幼稚園教員養成課程では、「領域に関する専門的事項」に関する科目を新設する必要性が生じ、各大学で取組が始まっている（山津，2021）。本稿では領域「健康」の中で開講する「幼児と健康 I（仮称）」のシラバス案を検討した。しかしながら、従来から開講されてきた指導法に関する科目である『保育内容「健康』との効果的な接続を検討していく必要がある。今後の重要な課題である。

6. 引用文献

- 文部科学省，幼稚園教育要領，2017 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/1258019.htm
- 厚生労働省，保育所保育指針，2017 https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=00010450&dataType=0&pageNo=1
- 内閣府，幼保連携型認定こども園教育・保育要領，2017 https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=00010420&dataType=0&pageNo=1
- 中央教育審議会，これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～（答申）（中教審第184号），2015 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1365665.htm
- 文部科学省，幼稚園教育要領解説，2018 https://www.mext.go.jp/content/1384661_3_3.pdf
- 吉田伊津美，領域「健康」の理解と指導法，河邊貴子・吉田伊津美（編），演習保育内容「健康」，建帛社，99-118，2020
- 一般社団法人保育教諭養成課程研究会，平成28年度幼稚園教諭の養成課程のモデルカリキュラムの開発に向けた調査研究：幼稚園教諭の資質能力の視点から養成課程の質保証を考える，2017
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afiedfile/2017/05/19/1385791_1.pdf
- 幼児期運動指針策定委員会，幼児期運動指針，2012 http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1319771.htm
- 山津幸司，幼稚園教員養成課程における領域「健康」の新設科目の開講状況：国立教員養成大学・学部シラバス分析による結果，佐賀大学教育学部研究論文集，5巻1号，155-162，2021